

平成21年度

# 事業報告書

(第3期事業年度)



自 平成21年4月 1日

至 平成22年3月31日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

## 目 次

1 大学の概要	
（1）大学名	1
（2）所在地	1
（3）役員の状況	1
（4）学部等の構成	1
① 学部等	1
② 大学院	1
③ 附属病院	2
④ その他の附属施設等	2
（5）学生数及び教職員数	2
（6）沿革	2
（7）建学の精神	3
（8）理念	3
（9）行動規範	3
（10）中期目標（基本目標）	3
2 業務の実績	
（1）総括	4
（2）計画の主な実績	4
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成す るための措置	4
第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置	7
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	7
第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成 するための措置	8
第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための 措置	8
第6 予算、収支計画及び資金計画	9
第7 短期借入金の状況	9
第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	9
第9 剰余金の使途	9
第10 その他	10
別 紙	11

# 北海道公立大学法人札幌医科大学事業報告書

## 1 大学の概要

### (1) 大学名

札幌医科大学

### (2) 所在地

北海道札幌市中央区南1条西17丁目291番地85

### (3) 役員の状況

役 職	氏 名
理 事 長 (学長)	島 本 和 明
副理事長	平 山 和 則
理 事	黒 木 由 夫
理 事	乾 公 美
理 事	塚 本 泰 司
理 事	白 崎 賢 治
監 事	籾 本 道 男
監 事	渡 辺 英 一

### (4) 学部等の構成

#### ① 学部等

医学部 医学科  
保健医療学部 看護学科  
理学療法学科  
作業療法学科  
医療人育成センター

#### ② 大学院

医学研究科 医科学専攻 (修士課程)  
地域医療人間総合医学専攻 (博士課程)  
分子・器官制御医学専攻 (博士課程)  
情報伝達制御医学専攻 (博士課程)  
保健医療学研究科 看護学専攻 (博士課程前期・後期)  
理学療法学・作業療法学専攻 (博士課程前期・後期)

③ 附属病院（平成22年4月1日現在）

診療科数	23 診療科
病床数	938 床
室数	273 室

④ その他の附属施設等

附属総合情報センター、附属産学・地域連携センター、  
医学部教育研究機器センター、医学部動物実験施設部、  
医学部附属がん研究所、医学部附属臨海医学研究所

(5) 学生数及び教職員数（平成22年4月1日現在）

学部学生	1,002 人
大学院生	273 人
研究生	252 人
訪問研究員	7 人
留学生	10 人
教員数	379 人
役職員数	1,102 人

(6) 沿革

本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。  
その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。  
この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣などを通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。  
また、平成19年4月には新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップのもと最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。  
さらに、平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。

(7) 建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

(8) 理念

- 最高レベルの医科大学を目指します
- ・人間性豊かな医療人の育成に努めます
  - ・道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
  - ・国際的・先端的な研究を進めます

(9) 行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

(10) 中期目標（基本目標）

- 1 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
- 2 進取の精神の下、世界水準の研究を推進し、国際的な研究拠点の形成を目指す。
- 3 高度先進医療の開発・提供を行い、本道の基幹病院としての役割を果たす。
- 4 健康づくり・疾病予防の視点に立った総合的な地域医療支援ネットワークの形成に努める。
- 5 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供やより一層の産学官連携を進め、研究成果の社会還元を努める。
- 6 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

## 2 業務の実績

### (1) 総括

本学は、公立大学法人として発足後、平成21年度で中期計画の中間点である3年目を迎え、大学を取り巻く環境が変わる中であって、堅実に順調に運営されている。

また、平成20年10月に設置された「医療人育成センター」の開設を記念し、センターの設置目的である高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成するため、4月から6月にかけて全6回にわたり、著名人による体系的な公開講座を開講し、受講者数も延べ1,962名に達するなど、大盛況を得た。

教育の分野における具体的な取組については、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」により、道内5大学（千歳科学技術大学、北海道医療大学、小樽商科大学、室蘭工業大学、札幌医科大学）で修士課程の大学院生を対象とした共通プログラムによる単位互換認定協定を3月に締結したほか、6月に早稲田大学スポーツ科学学術院、8月に財団法人全日本スキー連盟と連携協定を締結するなど、スポーツ医科学への寄与に向けて取り組んだ。

また、国の経済危機対策に関する平成21年度補正予算文部科学省高等教育局所管事業に、本学申請の「札幌医科大学教育研究高度化プロジェクト」が採択され、研究の高度化に取り組んだ。

研究の分野においては、神経再生医学講座で進めている国等から高く評価されている研究が、平成21年度から5カ年のプロジェクトとして選定された。

附属病院においては、初期臨床研修プログラムを改善したほか、地域医療を支える公的医療機関等に対して、診療支援を行った。

業務運営においては、職員の勤務実績を踏まえた評価制度として、「勤勉手当に係る勤務実績評価制度」について3月に職員組合と妥結に至り、平成22年12月期の勤勉手当から実施することとした。

また、法的義務である7年ごとの認証評価機関（大学基準協会）による認証評価の受審に向け、自己点検評価を全学的に実施した。

今後も、中期目標の達成に向けて、人的、物的ネットワークを活用し、理念に掲げる最高レベルの医科大学を目指し邁進していくものである。

### (2) 計画の主な実績

#### 第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

##### ○「公開リレー講座」の実施

平成20年10月に設置した医療人育成センターの開設を記念し、センターの設置目的である高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成するため、4月から6月にかけて全6回にわたり、著名人による体系的な公開講座を開講した。（受講者数 延べ1,962名）

##### ○「地域医療を支える人づくりプロジェクト事業」への協力

北海道の地域医療を支える人材の育成に向けた取組を実施することを目的とした北海道教育委員会との協定に基づき、「地域医療を支える人づくりプロジェクト事業」において、道内公立高校（6校）へ出前講義（7回）を実施した。

##### ○道内5大学による大学院修士課程の単位互換認定の協定締結

北海道の地域医療に貢献できる人材育成を目指した取組を進めるため、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」を活用し、道内5大学（千歳科学技術大学、北海道医療大学、小樽商科大学、室蘭工業大学、札幌医科大学）において、平成22年度から修士課程の大学院生を対象に、共通プログラムによる単位互換認定協定を3月に締結した。

### ○企業等との連携協定の締結

6月に早稲田大学スポーツ科学学術院とスポーツ医科学に貢献できる人材の育成を図り、学術の発展に寄与することを目的とした連携協定を締結した。また、8月に財団法人全日本スキー連盟とスポーツ医科学と競技力の向上に寄与することを目的とした連携協定を締結した。

### ○FD活動の実施

全学的なFD委員会を9月に設置し、FD委員会を5回、FDセミナーを2回、FDワークショップを1回、新任教員研修を1回実施するなどFD活動を行った。

### ○図書館における各種サービスの拡充

学生の要望に応え、図書館の24時間開館について継続して実施したほか、平成20年度末に導入した日本語電子ジャーナル「Medical Finder」を引き続き提供したことに加え、新たにオンライン版看護国家試験問題集や医学辞書の提供により、提供資料の充実を図るとともに、利便性の向上を図った。

また、1月に国内初となる推奨学術文献情報提供（レコメンダー）サービスを開始するとともに、2月に国立情報科学技術研究所CS1委託事業により国内2例目となる国内大学等発行論文誘導サービスを開始した。

### ○基礎研究及び臨床研究の推進

国等から高く評価されている脳梗塞患者に対する自家培養骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与による細胞療法の検討やヒト癌ワクチン実用化の臨床研究などを推進した。

### ○地域の保健福祉に関する研究の推進

釧路市と思春期保健事業に関わる分析を実施したほか、日高町と介護予防リーダー育成事業、上ノ国町と人骨の鑑定・復元に関わる研究等、地域の保健福祉に関する研究を推進した。

### ○北海道保健福祉部との懇談会の実施

10月に北海道保健福祉部と懇談会を開催し、医師派遣や助産師養成課程の継承、地域医療再生計画に関する事など、5項目について意見交換を行った。

### ○教員任期制度の適切な運用

教員任期制度の導入に伴い、職員自らが企画する研究やスキルアップを目的に制度化した「サバティカル研修」について、その実施を許可した。

### ※参考

- ・研修者：医学部動物実験施設部准教授
- ・研修内容：南部アフリカにおける病原微生物分布調査と抗菌物質の探索
- ・研修期間：平成22年7月1日～10月31日(4ヶ月間)
- ・研修場所：ザンビア共和国（ザンビア大学獣医学部）

### ○「倫理委員会」等研究審査組織の体制整備

平成21年度に新たに「一般研究倫理審査専門委員会」を設置し、月1回の委員会の開催を通じて、案件処理の効率化と迅速化を図ったほか、未固定凍結人体標本の利用に関する指針の策定に向けた調査・検討を行うため、「未固定凍結人体標本の利用に関する指針の検討部会」を6月に設置した。

### ○治験センターの充実

情報の共有化を図るため、治験センター会議について、原則、毎月1回開催し、案件処理体制の効率化を図ったほか、各種研修・会議に出席し、スタッフの資質の向上を図った。

また、9月に治験センターホームページのリニューアルを行い、企業等への効果的な情報発信に努めた。

### ○知的財産に関する規程の整備

知的財産に関し、迅速かつ適正に審査を行うため、6月に発明審査会規程、7月に研究成果有体物取扱規程を整備した。

### ○初期臨床研修プログラムの充実

初期臨床研修プログラムを改善し、研修1年目で将来専門としたい診療科を3か月研修できる「キャリアコース」と、研修2年目に全ての診療科を自由に11か月研修することが出来る「自由選択コース」の2つのコースを設けた。

※平成22年度研修予定者 … キャリアコース5名、自由選択コース45名

### ○地域医療機関への支援

地域医療を支える公的医療機関等に対して、診療支援を行った。

※派遣実績…2,144件（応諾率94.1%）

公的医療機関数に対する医師派遣件数の占める割合…58.6%

### ○道民公開講座の実施

平成22年に開学60周年（創基65周年）を迎えることから、冠事業として、関係機関等の協力を得て、道民公開講座を開催した。

- ・開催日：平成21年10月14日（松前町）
  - ・演題：体のしくみ
  - ・講師：医学部長
  - ・参加者：263人
- ・開催日：平成21年10月28日（利尻町）
  - ・演題：人は海から来た
  - ・講師：医学部長
  - ・参加者：156人

### ○札幌医科大学教育研究高度化プロジェクトの実施

国の経済危機対策に関する平成21年度補正予算文部科学省高等教育局所管事業にあたり学内プロジェクトチームを設置し補助申請を行った結果、札幌医科大学教育研究高度化プロジェクトが採択され、「神経研究高度化ユニット」、「癌研究高度化ユニット」、「教育高度化ユニット」を置くなど研究高度化に向けた支援や、大学院の整備に関する事業等を行った。

### ○保健・医療・地域貢献等の情報発信

大学の取組を紹介した折り込み広告について、3月に新聞を活用して札幌圏に38万部配布したほか、全市町村に5万部配布し、本学の保健・医療・地域貢献等の活動情報を広く道民へ情報発信した。

### ○附属病院における栄養相談の充実

栄養相談室を拡充（1部屋から2部屋へ）し、相談者のプライバシーの保護に配慮した相談が確保できる体制を整備したほか、栄養管理・栄養指導に関連するビデオ等を活用し、指導の充実を図った。

また、毎月1回、院内全体の残食調査を実施したほか、嗜好調査を昨年度より1回多い、2回に増やした。加えて、新たな献立の提供時には、その都度、残食調査を実施した。

さらに、委託業者との打合せ会議を毎月1回実施し、献立の配慮や選択食の充実を図った。

### ○病棟クレークの配置

医師、看護師の事務負担を軽減し、事務の効率化を図るため、平成20年度から導入した病棟クレークについて、その効果が高かったことから平成21年度は8名を増員した。

### ○大学院生の非常勤職員採用等による診療体制の強化

看護師免許や理学療法士・作業療法士の免許を有する教員について兼務発令を行い、附属病院において定期的に診療活動が行えるよう、診療参加の体制を整備した。

また、平成20年度から、理学療法士等の免許を有する保健医療学研究科の大学院生を非常勤職員として採用したところであるが、引き続き採用に努め、実践教育の実施と診療体制の充実を図った。

### ○病院経営改善に向けた取組強化

未収金残高について、電話・文書催告等の取組を進め、未収金残高の圧縮に努めた。また、医療材料及び医薬品の価格交渉を強化し、購入単価の引き下げを行った。

### ○病院機能評価Ver 5.0の受審

5月に（財）日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価Ver 5.0を受審した結果、改善要望事項1項目が付された「条件付き認定」となったが、平成22年度に確認審査を受審し、継続認定を取得する予定となっている。

## 第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

### ○事務事業の定期的な点検等の実施

組織機構改正等を通じて、事務事業の点検を実施し、8名相当分の業務を外部委託化した。

### ○専門職員等の採用

平成21年4月1日付けで、事務局に、専門的経験を有する者等プロパー職員を8名配置したほか、外部資金を活用し、契約職員38名を採用した。

※採用実績…平成20年度 5名

### ○職員の適切な評価制度の構築

職員の勤務実績を踏まえた評価制度として、「勤勉手当に係る勤務実績評価制度」について3月に職員組合との交渉を経て、平成22年12月期の勤勉手当から実施することとした。

### 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

#### ○効率的な契約方法等の導入

複数年契約については、契約内容や経費節減効果などを見極め、適時、適切に導入することとしており、平成21年度は、学務課、医事センター、附属情報センター等において、新たに複数年契約を実施したほか、附属総合情報センターでは、従来別々に行っていた類似契約を統合し、経費の節減を図った。

#### ○施設の適切な維持管理

「施設長期保全計画」に基づき大学棟や病院棟など空調機器の更新や内壁の塗装工事、保健医療学部棟の外壁改修工事、非常用発電設備の更新などの工事を実施した。

### 第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

#### ○自己点検・評価の実施

平成22年は、法的義務である7年ごとの認証評価機関（大学基準協会）による認証評価を受審する予定であることから、自己点検・評価を全学的に実施し、3月に報告書を取りまとめた。

#### ○ホームページの再構築

各担当者が積極的かつ迅速に情報発信できるようにホームページをCMSにより再構築を図った。

### 第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

#### ○施設の適切な維持管理

「施設長期保全計画」に基づき大学棟や病院棟など空調機器の更新や内壁の塗装工事、保健医療学部棟の外壁改修工事、非常用発電設備の更新などの工事を実施した。

#### ○労働安全衛生、事故防止等に係る学内規程等の点検整備

長期療養者の職場復帰に係る要領として、職場復帰審査会設置要領、同事務取扱要領及び職場リハビリテーション実施要領を作成したほか、附属病院において、医療安全マニュアルを改訂した。

#### ○安全管理体制に関する責任体制の明確化

安全衛生委員会委員を選任したほか、産業医を増員し、規程、マニュアル等の検証を行い、必要な要領及び手引きを作成した。

## 第6 決算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

## 第7 短期借入金の状況

※平成21年度の計画

①短期借入金の限度額

18億円

②想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。

※平成21年度の実績

該当なし

## 第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

※平成21年度の計画

該当なし

※平成21年度の実績

該当なし

## 第9 剰余金の使途

※平成21年度の計画

全学的視点に立ち、教育・研究・診療の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

※平成21年度の実績

該当なし

## 第10 その他

### 1 施設及び設備に関する計画

※平成21年度の計画

(単位：百万円)

施設・設備の内容	予定額	財源
施設整備事業費	591	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金
CPC(細胞調製施設)整備	215	目的積立金取崩

※平成21年度の実績

(単位：百万円)

施設・設備の内容	実績額	財源
施設整備事業費	890	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金
CPC(細胞調製施設)整備	215	施設整備費補助金

### 2 人事に関する計画

※平成21年度の計画

業務実績報告書の第2の3「人事の改善に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

※平成21年度の実績

業務実績報告書の第2の3「人事の改善に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

### 3 積立金の使途

※平成21年度の計画

該当なし

※平成21年度の実績

該当なし

## 別紙

平成21年度 決算

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	7,113	7,122	9	
施設整備費補助金	591	1,105	514	
自己収入	20,229	21,143	914	
授業料及び入学金検定料収入	916	889	△ 27	
附属病院収入	18,734	19,029	295	
雑収入	579	1,225	646	
受託研究等収入及び寄附金収入等	953	1,607	654	
長期借入金収入	520	520	0	
目的積立金取崩	215	0	△ 215	
計	29,621	31,497	1,876	
支出				
業務費	27,200	27,770	570	
教育研究経費	1,613	2,079	466	
診療経費	9,848	10,578	730	
人件費	15,014	14,551	△ 463	
一般管理費	725	562	△ 163	
施設整備費	1,326	1,625	299	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	953	718	△ 235	
長期借入金償還金	142	141	△ 1	
計	29,621	30,254	633	
収入-支出	0	1,243	1,243	

## 平成21年度 収支計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
経常費用	28,883	28,880	△ 3	
業務費	27,383	26,754	△ 629	
教育研究経費	2,013	1,550	△ 463	
診療経費	9,882	10,252	370	
受託研究費等	473	401	△ 72	
役員人件費	93	132	39	
教員人件費	4,375	3,934	△ 441	
職員人件費	10,547	10,485	△ 62	
一般管理経費	725	599	△ 126	
財務費用	12	11	△ 1	
減価償却費	763	1,517	754	
経常収益	28,780	29,151	371	
運営費交付金収益	7,093	6,884	△ 209	
施設費収益	0	85	85	
授業料収益	808	778	△ 30	
入学金収益	93	94	1	
検定料収益	16	16	0	
附属病院収益	18,734	19,029	295	
受託研究等収益	534	544	10	
寄附金収益	470	439	△ 31	
雑益	535	743	208	
資産見返運営費交付金等戻入	29	38	9	
資産見返寄附金戻入	24	30	6	
資産見返補助金等戻入	9	31	22	
資産見返物品受贈額戻入	435	440	5	
経常損益	△ 103	271	374	
臨時損失	0	9	9	
臨時利益	0	0	0	
純損益	△ 103	262	365	
目的積立金取崩額	0	0	0	
総利益	△ 103	262	365	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

平成21年度 資金計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
資金支出	29,621	33,916	4,295	
業務活動による支出	28,093	27,349	△ 744	
投資活動による支出	1,386	3,508	2,122	
財務活動による支出	142	730	588	
翌年度への繰越金	0	2,329	2,329	
資金収入	29,621	33,916	4,295	
業務活動による収入	28,295	29,076	781	
運営費交付金による収入	7,113	7,002	△ 111	
授業料及び入学金検定料による収入	916	780	△ 136	
附属病院収入	18,734	18,913	179	
受託収入	473	563	90	
寄附金収入	480	548	68	
その他収入	579	1,262	683	
預り科学研究費補助金等増減	0	7	7	
投資活動による収入	806	2,925	2,119	
施設費による収入	591	522	△ 69	
その他収入	215	2,404	2,189	
財務活動による収入	520	520	0	
前年度よりの繰越金	0	1,394	1,394	

(注)金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。